

## 小項目ごとの検証・確認における論点整理 (第1期)

自己評価の区分		判断の目安
IV	中期目標を上回っている	目標達成状況が100%超
III	概ね中期目標どおり達成している	目標達成状況が90%超100%以下
II	中期目標を下回っている	目標達成状況が60%超90%以下
I	中期目標を大幅に下回っている	目標達成状況が60%以下

## 公立大学法人岐阜県立看護大学

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)
2-1-1 人材の育成 ア 看護学部看護学科の教育 ヒューマンケアの基本技術を身につけ、患者など看護の対象が遭遇する諸問題の解決に看護職として責任を持って取り組み、看護サービスの充実に貢献できる基礎的能力を有する人材を育成する。	<p>① 付与すべき能力を以下のとおりとし、確実に培う教育方法を開発し、実施した。</p> <p>a 生活者としての人間に対する深い理解と総合的な判断力をもち、人々のヘルスケアニーズに対応できる能力</p> <p>b 保健・医療・福祉領域の専門職や関係者とケアチームを組んで協働活動ができる能力</p> <p>c 多様な課題の問題解決に取り組むために自らの専門機能を拡大していく能力</p> <p>d 看護実践を重ねることを通して看護学研究への関心を深め看護実践の改革に貢献できる基礎的能力</p> <p>e 主体的な自己を確立する能力と幅広い視野、複眼的な施行・判断力</p> <p>教育理念・目標に基づき、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を明確にして教育の一貫性をより確実なものにした。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーとの整合性を確認した卒業時到達目標の達成に向けて、新規に授業科目(看護学統合演習)を開講し、教育方法の改善を重ね充実を図った。</p> <p>② 学生のニーズ・特性に配慮し、専門科目を初年時から導入した教育課程を展開した。</p> <p>看護に関心の高い学生が入学してきていることを確認し、一年次1 Semester(※)における4領域の看護学概論学外演習について、学生が社会における看護の役割と特性について理解が深まるように目標と方法を見直し実施した。</p> <p>※Semester: 1つの授業を1年間通じて実施する通年性における前期・後期の区分とは異なり、学期(Semester)毎に完結させる。本学では、1年間を2学期で区分し、4年間の課程を1~8 Semesterで示す。</p> <p>③ 主体的な自己を高めるため、4年間の学修において教養教育を充実させた。</p> <p>教養教育は、深い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養することを目的としており、21世紀を生きる市民として必要な知識・技術の修得を目指す教養基礎科目と、幅広い視野と複眼的な思考力・判断力を培い、問題解決力の育成を図る教養選択科目とで構成されている。4年間を通じて目的に向かって学修が深まるように、学生への動機付けを強化するとともに、教育効果を高めるために非常勤講師との連携を図った。</p> <p>④ 看護職としての生涯学習の基礎となるよう卒業研究を充実させた。</p>	IV		将来的には専門看護師育成コースの増設をお願いしたい。

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)
イ 大学院看護学研究科の教育 保健・医療機関、福祉施設等 の看護の現場における看護実 践活動の改善・改革を指導す る者として、県民が受ける看 護サービスの現状を的確に把 握し、その質の向上を図ること ができる専門性の高い看護 職者を養成する。	<p>卒業研究における学生の思考過程の現状を明らかにして、生涯学習の基盤づくりの観点から卒業研究の成果を確認し、ファカルティ・ディベロップメント(FD)(※)研修会を通じて成果を高めるための指導方法について検討し、卒業研究の充実を図った。</p> <p>※ ファカルティ・ディベロップメント(FD)：教員が授業内容方法を改善し向上させるための組織的取り組み</p> <p>① 博士前期課程では、付与すべき能力を以下のとおりとし、確実に培う教育方法を開発し、実施した。</p> <p>a 看護の質の充実に向けた改革を実行する能力 b 専門性の高い看護実践を遂行する能力 c 多様な関係者の中で、ケアの充実に向けた調整・管理をする能力 d 総合的視野と高い倫理観に基づく看護サービスを改革する能力 e 各種の専門領域で人材育成を担う教育的能力</p> <p>実務看護職者の自己の看護実践を研究事象として導くため、授業科目「看護学特別研究」を一～三年次を通して配置した。特に、一年次の7月・11月には専門領域を超えた協働授業を実施し、看護実践研究の特質を共有する指導を強化した。</p> <p>博士前期課程の特別研究指導に関するFDを年2回実施し、一年次における指導内容の共有と二・三年次の指導、及び本学助教の教員が大学院生として学ぶ場合の指導について検討した。</p> <p>また博士前期課程の学位授与方針を作成し、修士論文審査委員会における論文審査方法を確立した。</p> <p>② 看護実践の改革者育成という社会ニーズを考慮し、就業・学業の両立できる教育課程を充実させた。</p> <p>学生の教育背景・実務体験・職位や役割を尊重し、看護実践を基盤とした研究が職場での仕事と両立できるように三年の課程とし、金曜土曜の集中カリキュラムを実施し、学生への支援を行った。</p> <p>③ 専門看護師育成コースの充実を図った。</p> <p>専門看護師は、慢性看護・がん看護・小児看護の3コースを開設し、11名が資格を取得した。毎年度複数名の入学者を確保し、県内の専門看護師養成のニーズに対応した。</p> <p>平成28年度の専門看護師教育課程基準の改正に向けて、看護学共通科目及び専門科目において新しい科目を開講し、申請に向けた準備を整えた。</p> <p>④ 学生・修了者及びこれらの者の所属する施設の関係者等による評価を実施した。</p> <p>前期課程修了時の学生による授業評価は、学生及び自施設の同僚・上司の三者評価(※)として毎年実施した。当該三者評価において、本研究科で付与すべき能力(現場をより改善していくための能力等)に合致した学びが確認でき、現行の教育課程・指導体制を継続することとした。</p> <p>※ 三者評価：博士前期課程修了者が看護実践の質向上を目指して自施設で取り組んだ看護実践研究に関し、上司、同僚及び自己による評価を行うもの。これにより、自施設の看護実践における研究の成果が明確になり、今後の課題に取り組む基盤となる。</p>			

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																																																																															
	<p>⑤ 博士後期課程では、付与すべき能力を以下のとおりとし、確実に培う教育方法を開発し、実施した。</p> <p>a 看護サービスが提供される場に関する多様な要因について理解ができ、実践の改善・改革の研究を指導できる能力</p> <p>b 地域の看護行政・看護政策にかかわる看護実践研究の課題が明確化でき、看護行政施策の進展に向けた研究的取組みができる能力</p> <p>c 利用者中心の看護として、倫理的課題を把握し、看護実践の改善に向けた研究的取組みができる能力</p> <p>d 看護実践の改善・改革を目指す看護学の学士課程教育や大学院教育を実施できる能力</p> <p>学位授与方針を作成し、学位授与方針に基づき一年次から看護学教育及び看護行政・政策論に関する課題レポート作成に向けた指導の充実を図り、博士論文作成に向けた研究指導を実施した。</p>																																																																																		
<p>2-1-2 学生の確保 ア 適切な入学者選抜の導入 大学の教育理念にかなった学生を確保するため、適切な入学者選抜方法を追究し、導入する。</p>	<p>① 看護学科では、一般選抜及び特別選抜(推薦)による入学試験制度を分析・評価し、本学が求める人材を確保するため、適切な入学者選抜方法を開発し、実施した。</p> <p>入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に示す本学が求める人材を確保するために、開学後2年目以降の入学試験(推薦、前期、後期)種別に入学後の成績、休学・退学、免許取得状況等の分析を重ねた。また、県内高等学校の進路指導教員に面接して、看護職を目指す生徒の動向、受験大学の選択基準、推薦入試に関する考え方を把握し、入試センター試験を活用した推薦入試等入学者選抜方法を開発した。</p> <p>* 入試倍率の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>推薦入試</th> <th>一般入試 (前期日程)</th> <th>一般入試 (後期日程)</th> <th>一般入試 計</th> <th>大学計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>募集人員</td> <td>20</td> <td>50</td> <td>10</td> <td>60</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H22</td> <td>志願者数</td> <td>62</td> <td>216</td> <td>221</td> <td>437</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>3.1</td> <td>4.3</td> <td>22.1</td> <td>7.3</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H23</td> <td>志願者数</td> <td>51</td> <td>292</td> <td>360</td> <td>652</td> <td>703</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>2.6</td> <td>5.8</td> <td>36.0</td> <td>10.9</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H24</td> <td>志願者数</td> <td>54</td> <td>189</td> <td>310</td> <td>499</td> <td>553</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>2.7</td> <td>3.8</td> <td>31.0</td> <td>8.3</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H25</td> <td>志願者数</td> <td>56</td> <td>193</td> <td>229</td> <td>422</td> <td>478</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>2.8</td> <td>3.9</td> <td>22.9</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H26</td> <td>志願者数</td> <td>47</td> <td>246</td> <td>245</td> <td>491</td> <td>538</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>2.4</td> <td>4.9</td> <td>24.5</td> <td>8.2</td> <td>6.7</td> </tr> </tbody> </table>			推薦入試	一般入試 (前期日程)	一般入試 (後期日程)	一般入試 計	大学計		募集人員	20	50	10	60	80	H22	志願者数	62	216	221	437	499	志願倍率	3.1	4.3	22.1	7.3	6.2	H23	志願者数	51	292	360	652	703	志願倍率	2.6	5.8	36.0	10.9	8.8	H24	志願者数	54	189	310	499	553	志願倍率	2.7	3.8	31.0	8.3	6.9	H25	志願者数	56	193	229	422	478	志願倍率	2.8	3.9	22.9	7	6	H26	志願者数	47	246	245	491	538	志願倍率	2.4	4.9	24.5	8.2	6.7		<p>評価の検証</p> <p>Ⅲ→Ⅳ 志願者数が多く、倍率も高い。</p> <p>Ⅲ→Ⅳ 定員の確保が成さ れていれば、他校 と比較する必要は ないと思われる。</p> <p>Ⅲのまま 志願者数が毎年少 ずつ減少してい るようですが…</p>	<p>「Ⅳ」 受験者数が減少して いるなかで、高い倍率 を確保できていること は評価できる。</p>
		推薦入試	一般入試 (前期日程)	一般入試 (後期日程)	一般入試 計	大学計																																																																													
	募集人員	20	50	10	60	80																																																																													
H22	志願者数	62	216	221	437	499																																																																													
	志願倍率	3.1	4.3	22.1	7.3	6.2																																																																													
H23	志願者数	51	292	360	652	703																																																																													
	志願倍率	2.6	5.8	36.0	10.9	8.8																																																																													
H24	志願者数	54	189	310	499	553																																																																													
	志願倍率	2.7	3.8	31.0	8.3	6.9																																																																													
H25	志願者数	56	193	229	422	478																																																																													
	志願倍率	2.8	3.9	22.9	7	6																																																																													
H26	志願者数	47	246	245	491	538																																																																													
	志願倍率	2.4	4.9	24.5	8.2	6.7																																																																													

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価							評価委員会の検証		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項							自己 評価	論 点	検 証 (案)
	H27	志願者数	43	199	216	415	458			
		志願倍率	2.2	4.0	21.6	6.9	5.7			
	H28	志願者数	44	149	154	303	347			
		志願倍率	2.2	3.0	15.4	5.1	4.3			
	* 看護系大学数									
	年度	県内の大学数 (入学定員)		全国の看護系大学数 (入学定員)						
	H12	本学のみ (80人)		84大学 (約6,000人)						
	H22	4大学 (340人)		188大学 (15,394人)						
	H27	7大学 (580人)		241大学 (20,814人)						
	* 他大学の入試状況									
			H28							
			一般前期			一般後期				
			募集 人員	志願 者数	志願 倍率	募集 人員	志願 者数	志願 倍率		
	岐阜県立看護大学	看護学部	50	149	3.0	10	154	15.4		
	愛知県立大学	看護学部	50	222	4.4	5	112	22.4		
	名古屋市立大学	看護学部	40	128	3.2	5	86	17.2		
	三重県立看護大学	看護学部	50	194	3.9	15	177	11.8		
	石川県立看護大学	看護学部	40	127	3.2	10	163	16.3		
	福井県立大学	看護福祉学部	32	251	7.8	27	295	10.9		
	岐阜大学	医学部看護学科	47	164	3.5	20	151	7.6		
	名古屋大学	医学部保健学科看護学専攻	45	114	2.5					
	三重大学	医学部看護学科	55	152	2.8	10	126	12.6		

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価						評価委員会の検証					
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項						自己 評価	論 点 検 証 (案)				
イ 広報活動の充実 看護学を志向する者の拡大を 図るため、戦略的かつ効果的 な広報活動の推進を図る。	<p>② 看護学研究科では、学士課程卒以外の看護職者の出願資格の認定を行うなど、看護サービスの質の向上を目指す多様な志願者を受け入れることのできる入学者選抜方法を開発し、研究科が求める人材を確保した。 大学院受験者が適切に専攻領域を選択できるように事前面談の体制を確立した。出願資格審査においては、小論文と面接による審査の方法を確立し継続実施した。</p>											
	* 入試倍率の推移 (博士前期)			* 入試倍率の推移 (博士後期)								
	年度	H22	H23	H24	H25	H26					H27	H28
	入学定員	12	12	12	12	12					12	12
	出願者数	15	15	15	15	18					12	10
	出願倍率	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5			1.0	0.8		
	年度	H22	H23	H24	H25	H26			H27	H28		
	入学定員	2	2	2	2	2			2	2		
	出願者数	3	1	1	4	0			2	5		
	出願倍率	1.5	0.5	0.5	2.0	0.0			1.0	2.5		
<p>① 本学の理念・人材育成目標に適合した志願者確保のため、広報活動を計画的に推進した。 法人の広報活動対策会議で定めた方針に基づき、広報部会が中心となって実施方法を検討し、オープンキャンパス、出張式大学説明会等について毎年改善を加えて、全学体制で取り組んだ。 また、本学選択に影響を与えた媒体の調査にて多数を占めたホームページと大学案内冊子の充実を図った。</p>												
* オープンキャンパスの参加者数												
年度	H21	H22	H23	H24	H25			H26	H27			
高校生	420	433	542	533	557			614	655			
中学生	15	10	9	2	3			7	0			
その他	171	225	267	243	262			274	269			
合計	606	668	818	778	822	895	924					
* 出張式大学説明会の参加者数												
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27					
件数	8	6	8	25	36	27	50					
参加者数	236	153	210	543	680	522	1,009					
<p>② 看護学研究科については、実習施設等への働きかけを積極的に行い、看護サービスの質の向上に連動した志願者確保を行った。 「岐阜県看護実践研究交流会」及び本学主催の「共同研究報告と討論の会」において、本学の生涯学習支援事業を説明し活用を促した。また、卒業生・修了者の就業が多い病院の看護部との「人材育成に関する情報交換会」、「看護の人材</p>												

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																																				
	育成と活用等に関する連絡協議会」、県主催の各種研修会にて、大学院での学修を勧めた。 卒業生交流会を学部同窓会と共催で実施し、卒業生の交流を図るとともに大学院での学修について情報提供を行った。																																							
2-1-3 学生支援 ア 学修支援 学生の学修に関する相談・指導をきめ細やかに行うための体制の充実を図るとともに、図書の充実等の学修環境の整備を行う。 大学院看護学研究科の学生に対しては、社会人学生の置かれている立場に留意し、学修と就業が両立できるように支援する。	<p>① 学生の学修について、学生相談員による個別指導や面接等により課題と支援ニーズを把握し、即応的な対応を行った。教授会の下に設置された学生相談教員部会は、学生生活委員会と協力して、毎年一・二次生全員に対して個別面談を実施し、学修支援が必要な者には教務委員会及び各看護学領域と協議して、継続的に学生を支援する体制を整備した。</p> <p>② 図書・雑誌・視聴覚資料等の整備の基本方針を確認するなど、学生の自主学修に適した学内環境の整備を行った。岐阜県立看護大学図書館資料収集方針を策定し、それに基づき、図書約86,000冊(看護学・医学約43,000冊、一般約43,000冊)、雑誌約300種、8種の有料データベース及び電子ジャーナルパッケージを整備した。また、学生生活実態調査を定期的実施し、その結果に基づき、学生自習室の設置及びPC・プリンターの配備、演習室の暖房器具の設置等により、学生の自主学修に適した学内環境を整備した。</p> <p>③ 看護学研究科では、学生との懇談会、集団面接を定期的に行い、社会人学生のニーズを把握し、就業と両立できる対策を実施した。また遠隔地の学生には利便性を高めるために、テレビ会議システムの活用を促した。</p> <p>* テレビ会議システムの利用回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>* テレビ会議システムの設置状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>所在地</th> <th>導入年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岐阜県立下呂温泉病院</td> <td>下呂市</td> <td>平成16年5月</td> </tr> <tr> <td>JA岐阜厚生連 久美愛厚生病院</td> <td>高山市</td> <td>平成18年10月</td> </tr> <tr> <td>岐阜県総合医療センター</td> <td>岐阜市</td> <td>平成19年4月</td> </tr> <tr> <td>揖斐郡北西部地域医療センター</td> <td>揖斐郡揖斐川町</td> <td>平成20年4月</td> </tr> <tr> <td>のぞみの丘ホスピタル</td> <td>美濃加茂市</td> <td>平成23年4月</td> </tr> <tr> <td>岐阜県立多治見病院</td> <td>多治見市</td> <td>平成25年9月</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 学生生活支援 学生の健康面や経済面など学生生活に関する相談・指導</p> <p>① 学校保健安全法に基づく定期健康診断による健康管理・保健指導を実施した。 4月に定期健康診断を実施し、保健師が全員に個別面談し結果を返して、学生の主体的な健康管理を促進するために健康相談や生活指導を実施する体制を確立した。要精検の学生には受診勧奨、要観察の学生には個別相談・指導を行った。</p>	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	回数	7	5	4	9	20	24	18	施設名	所在地	導入年月	岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	平成16年5月	JA岐阜厚生連 久美愛厚生病院	高山市	平成18年10月	岐阜県総合医療センター	岐阜市	平成19年4月	揖斐郡北西部地域医療センター	揖斐郡揖斐川町	平成20年4月	のぞみの丘ホスピタル	美濃加茂市	平成23年4月	岐阜県立多治見病院	多治見市	平成25年9月	III	就業ガイダンスの病院拡大や個々の学生を対象にした看護学部長との面談など、就業につながる取り組みにより、県内就職率のさらなる向上に努めてほしい。
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																	
回数	7	5	4	9	20	24	18																																	
施設名	所在地	導入年月																																						
岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	平成16年5月																																						
JA岐阜厚生連 久美愛厚生病院	高山市	平成18年10月																																						
岐阜県総合医療センター	岐阜市	平成19年4月																																						
揖斐郡北西部地域医療センター	揖斐郡揖斐川町	平成20年4月																																						
のぞみの丘ホスピタル	美濃加茂市	平成23年4月																																						
岐阜県立多治見病院	多治見市	平成25年9月																																						

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																										
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																																																									
<p>を行うための体制の充実を図るとともに、学生生活が快適で豊かなものとなるよう大学施設・設備等の充実を図る。</p>	<p>また、毎年度健康管理年報を作成し、全教職員に配布して情報共有を図った。</p> <p>② 学生の健康増進・予防に向けて、専門職による助言相談・指導を実施した。 学生の心身の問題に適切に対応するため、問題に応じて内科系非常勤医師（校医）及び精神科系非常勤医師（精神科顧問医）から定期的に助言を受けた。 また、心の問題については、カウンセリング専用室を整備し、非常勤カウンセラーによる週1回のカウンセリングを開催し、継続実施した。カウンセリング専用室は、非常勤カウンセラーの助言を得て、室内環境を整備した。</p> <p>* 非常勤カウンセラーによるカウンセリングの利用件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>49</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 各種奨学金等の制度に関する情報提供や相談受付等、学生の経済面の支援体制を充実させた。 本学独自の経済面の支援制度および日本学生支援機構の奨学金等については、毎年度当初の学年別学生ガイダンスで情報提供した。また、授業料減免制度により経済面の支援を行った。平成27年度には大学独自の給付型奨学金制度を新設した。</p> <p>* 授業料減免制度による支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>セメスター</th> <th>減免の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">H21</td> <td>前期</td> <td>全額7人、半額-</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額7人、半額-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H22</td> <td>前期</td> <td>全額-、半額6人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額-、半額7人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H23</td> <td>前期</td> <td>全額3人、半額3人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額3人、半額4人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H24</td> <td>前期</td> <td>全額1人、半額4人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額1人、半額5人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>セメスター</th> <th>減免の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">H25</td> <td>前期</td> <td>全額3人、半額2人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額3人、半額1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H26</td> <td>前期</td> <td>全額3人、半額1人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額3人、半額1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H27</td> <td>前期</td> <td>全額2人、半額2人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額2人、半額1人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	件数	49	33	34	26	18	30	21	年度	セメスター	減免の人数	H21	前期	全額7人、半額-	後期	全額7人、半額-	H22	前期	全額-、半額6人	後期	全額-、半額7人	H23	前期	全額3人、半額3人	後期	全額3人、半額4人	H24	前期	全額1人、半額4人	後期	全額1人、半額5人	年度	セメスター	減免の人数	H25	前期	全額3人、半額2人	後期	全額3人、半額1人	H26	前期	全額3人、半額1人	後期	全額3人、半額1人	H27	前期	全額2人、半額2人	後期	全額2人、半額1人			
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																																						
件数	49	33	34	26	18	30	21																																																						
年度	セメスター	減免の人数																																																											
H21	前期	全額7人、半額-																																																											
	後期	全額7人、半額-																																																											
H22	前期	全額-、半額6人																																																											
	後期	全額-、半額7人																																																											
H23	前期	全額3人、半額3人																																																											
	後期	全額3人、半額4人																																																											
H24	前期	全額1人、半額4人																																																											
	後期	全額1人、半額5人																																																											
年度	セメスター	減免の人数																																																											
H25	前期	全額3人、半額2人																																																											
	後期	全額3人、半額1人																																																											
H26	前期	全額3人、半額1人																																																											
	後期	全額3人、半額1人																																																											
H27	前期	全額2人、半額2人																																																											
	後期	全額2人、半額1人																																																											

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価						評価委員会の検証		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項						自己 評価	論 点	検 証 (案)
	* 奨学金貸与者数								
	年度	種類	新規	継続	合計	総計			
	H21	日本学生支援機構	第一種	15	41	56	129 人		
			第二種	16	41	57			
		岐阜県選奨生	2	14	16				
	H22	日本学生支援機構	第一種	15	42	57	141 人		
			第二種	25	46	71			
		岐阜県選奨生	4	9	13				
	H23	日本学生支援機構	第一種	13	42	55	142 人		
			第二種	21	53	74			
		岐阜県選奨生	6	7	13				
	H24	日本学生支援機構	第一種	14	43	57	147 人		
			第二種	24	55	79			
		岐阜県選奨生	2	9	11				
	H25	日本学生支援機構	第一種	14	39	53	140 人		
			第二種	19	61	80			
		岐阜県選奨生	0	7	7				
	H26	日本学生支援機構	第一種	18	42	60	134 人		
			第二種	15	54	69			
		岐阜県選奨生	1	4	5				
	H27	日本学生支援機構	第一種	14	44	58	113 人		
			第二種	9	40	49			
		岐阜県選奨生	3	3	6				

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																									
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																																																																																								
ウ 就職支援 学生の進路や就職に関する 相談・指導を行うための体制 の充実を図るとともに、看護 師など各種資格取得に向けた 適切な支援を行う。	<p>④ 学生生活が快適かつ安全に送れるよう環境を整備した。 図書館の防寒対策として、閲覧席へのパネルヒーターの設置、窓を二重サッシにする等を実施した。また、学生の希望により、軽食の自販機を24時間利用できるように設置した。さらに、防犯対策として、駐車場に続く通路への誘導灯設置、全学生への防犯ブザーの配布、通学路の巡回等を実施した。</p> <p>① 就職体験研修や卒業者との交流会など、学年次の学修進行に適した就職支援体制の充実を図った。 各学年への就職ガイダンスは、一年次から四年次までの計画を体系的に整備して実施した。 とりわけ、学生の進路決定のプロセスの現状を考慮して、三年次の1月に看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業者との交流会を開催するとともに、三年次の1月に県内医療施設の参加を得て、看護部長や卒業者等による全体説明会と個別相談会を開催したところ、看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えられるようになった。</p> <p>* 県内医療施設による全体説明会参加状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H22</th> <th>H23①</th> <th>H23②</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者</td> <td>全学年</td> <td>四年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>138</td> <td>150</td> <td>143</td> <td>93</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>医療機関数</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 保健師・助産師・看護師・養護教諭など専門分野に応じた進路・就職相談ができる体制を整備した。 教授会に看護師・保健師・助産師・養護教諭で構成する就職進路対策部会を設置し、専門分野に応じた進路・就職相談ができる体制の整備を図った。 第1期の6年間で、252名が県内に就職し、卒業生全体の54.9%を占めた。なお、平成12年に開学し、平成15年度の第1期卒業生以降、547名を県内に輩出し、地域貢献に繋がった。</p> <p>* 就職状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">出身</th> <th colspan="3">就職先(人数)</th> <th colspan="2">就職先(%)</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>合計</th> <th>県内</th> <th>県外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">H22</td> <td>県内</td> <td>49</td> <td>34</td> <td>15</td> <td>49</td> <td>69.4%</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>27</td> <td>5</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>18.5%</td> <td>81.5%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76</td> <td>39</td> <td>37</td> <td>76</td> <td><b>51.3%</b></td> <td><b>48.7%</b></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">H23</td> <td>県内</td> <td>45</td> <td>39</td> <td>6</td> <td>45</td> <td>86.7%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>25.8%</td> <td>74.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76</td> <td>47</td> <td>29</td> <td>76</td> <td><b>61.8%</b></td> <td><b>38.2%</b></td> </tr> </tbody> </table>	年度	H22	H23①	H23②	H24	H25	H26	H27	対象者	全学年	四年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	参加者数	30	25	138	150	143	93	115	医療機関数	10	11	11	14	13	17	16		出身	就職先(人数)			就職先(%)		県内	県外	合計	県内	県外	H22	県内	49	34	15	49	69.4%	30.6%	県外	27	5	22	27	18.5%	81.5%	計	76	39	37	76	<b>51.3%</b>	<b>48.7%</b>	H23	県内	45	39	6	45	86.7%	13.3%	県外	31	8	23	31	25.8%	74.2%	計	76	47	29	76	<b>61.8%</b>	<b>38.2%</b>			
年度	H22	H23①	H23②	H24	H25	H26	H27																																																																																					
対象者	全学年	四年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生																																																																																					
参加者数	30	25	138	150	143	93	115																																																																																					
医療機関数	10	11	11	14	13	17	16																																																																																					
	出身	就職先(人数)			就職先(%)																																																																																							
		県内	県外	合計	県内	県外																																																																																						
H22	県内	49	34	15	49	69.4%	30.6%																																																																																					
	県外	27	5	22	27	18.5%	81.5%																																																																																					
	計	76	39	37	76	<b>51.3%</b>	<b>48.7%</b>																																																																																					
H23	県内	45	39	6	45	86.7%	13.3%																																																																																					
	県外	31	8	23	31	25.8%	74.2%																																																																																					
	計	76	47	29	76	<b>61.8%</b>	<b>38.2%</b>																																																																																					

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価								評価委員会の検証																																										
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項								自己 評価	論 点	検 証 (案)																																								
	H24	県内	42	29	13	42	69.0%	31.0%																																											
		県外	33	9	24	33	27.3%	72.7%																																											
		計	75	38	37	75	<b>50.7%</b>	<b>49.3%</b>																																											
	H25	県内	44	36	8	44	81.8%	18.2%																																											
		県外	30	4	26	30	13.3%	86.7%																																											
		計	74	40	34	74	<b>54.1%</b>	<b>45.9%</b>																																											
	H26	県内	54	38	16	54	70.4%	29.6%																																											
		県外	26	2	24	26	7.7%	92.3%																																											
		計	80	40	40	80	<b>50.0%</b>	<b>50.0%</b>																																											
	H27	県内	50	42	8	50	84.0%	16.0%																																											
		県外	28	6	22	28	21.4%	78.6%																																											
		計	78	48	30	78	<b>61.5%</b>	<b>38.5%</b>																																											
	第1期 合 計	県内	284	218	66	284	76.8%	23.2%																																											
		県外	175	34	141	175	19.4%	80.6%																																											
		計	459	252	207	459	<b>54.9%</b>	<b>45.1%</b>																																											
<p>③ 学内のどこからでも看護師・保健師国家試験WEB版を活用できるように学内LANを利用して継続して提供するとともに、演習室を自己学習の場として提供した。</p> <p>* 国家試験合格率（保健師）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>81</td> <td>77</td> <td>79</td> <td>80</td> <td>78</td> <td>80</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>76</td> <td>75</td> <td>74</td> <td>80</td> <td>75</td> <td>80</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>93.8%</td> <td>97.4%</td> <td>93.7%</td> <td>100.0%</td> <td>96.2%</td> <td>100.0%</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>全国合格率</td> <td>87.8%</td> <td>89.7%</td> <td>89.2%</td> <td>97.5%</td> <td>88.8%</td> <td>99.6%</td> <td>92.6%</td> </tr> </tbody> </table>												年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	受験者数	81	77	79	80	78	80	81	合格者数	76	75	74	80	75	80	76	合格率	93.8%	97.4%	93.7%	100.0%	96.2%	100.0%	93.8%	全国合格率	87.8%	89.7%	89.2%	97.5%	88.8%	99.6%	92.6%
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																												
受験者数	81	77	79	80	78	80	81																																												
合格者数	76	75	74	80	75	80	76																																												
合格率	93.8%	97.4%	93.7%	100.0%	96.2%	100.0%	93.8%																																												
全国合格率	87.8%	89.7%	89.2%	97.5%	88.8%	99.6%	92.6%																																												

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価							評価委員会の検証																																																																																		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項							自己評価	論点	検証(案)																																																																																
	<p>* 国家試験合格率(看護師)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>80</td> <td>75</td> <td>79</td> <td>80</td> <td>78</td> <td>80</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>80</td> <td>75</td> <td>77</td> <td>79</td> <td>77</td> <td>79</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>97.5%</td> <td>98.8%</td> <td>98.7%</td> <td>98.8%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>全国合格率</td> <td>93.9%</td> <td>96.4%</td> <td>95.1%</td> <td>94.1%</td> <td>95.2%</td> <td>95.5%</td> <td>94.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 国家試験合格率(助産師)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>83.3%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>全国合格率</td> <td>83.2%</td> <td>98.2%</td> <td>96.0%</td> <td>98.9%</td> <td>97.6%</td> <td>99.9%</td> <td>99.8%</td> </tr> </tbody> </table>							年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	受験者数	80	75	79	80	78	80	81	合格者数	80	75	77	79	77	79	81	合格率	100.0%	100.0%	97.5%	98.8%	98.7%	98.8%	100.0%	全国合格率	93.9%	96.4%	95.1%	94.1%	95.2%	95.5%	94.9%	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	受験者数	6	6	6	6	4	6	6	合格者数	5	6	6	6	4	6	6	合格率	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	全国合格率	83.2%	98.2%	96.0%	98.9%	97.6%	99.9%	99.8%			
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																																																																			
受験者数	80	75	79	80	78	80	81																																																																																			
合格者数	80	75	77	79	77	79	81																																																																																			
合格率	100.0%	100.0%	97.5%	98.8%	98.7%	98.8%	100.0%																																																																																			
全国合格率	93.9%	96.4%	95.1%	94.1%	95.2%	95.5%	94.9%																																																																																			
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																																																																			
受験者数	6	6	6	6	4	6	6																																																																																			
合格者数	5	6	6	6	4	6	6																																																																																			
合格率	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																																																			
全国合格率	83.2%	98.2%	96.0%	98.9%	97.6%	99.9%	99.8%																																																																																			
<p>2-3-4 県の看護政策推進への寄与</p> <p>県の高等教育機関としての使命を果たすため、大学の有する知的資源や人材を活用して、県の看護政策推進に寄与する。</p>	<p>① 県との連携を図り、県が実施する保健医療福祉政策等の効果的な展開について、大学固有の方法で協力を行うとともに、保健師、看護師、助産師及び養護教諭等の研修について、企画・運営・実施・評価に関する支援を行った。具体的には、下記3つの表に示すとおり、岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会や岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会等の各種委員に就任するとともに、医療的ケア専門研修や保健師現任研修等の各種研修について企画・運営等の支援、及び各研修会の講師派遣を行った。</p> <p>* 各種委員会委員状況(岐阜県)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員会委員名</th> <th>委員担当開始年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岐阜県公衆衛生研修会評議員</td> <td>平成12年度～現在に至る</td> </tr> <tr> <td>岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会委員</td> <td>平成19年度～現在に至る</td> </tr> <tr> <td>岐阜県准看護師試験委員</td> <td>平成22年度～現在に至る</td> </tr> <tr> <td>岐阜県新しい公共の場づくりのためのモデル事業会議体委員(委員長)</td> <td>平成23～24年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県看護師等就業協力員</td> <td>平成23～24年度</td> </tr> <tr> <td>ヘルスプランぎふ21推進会議委員</td> <td>平成23・25年度</td> </tr> </tbody> </table>							委員会委員名	委員担当開始年度	岐阜県公衆衛生研修会評議員	平成12年度～現在に至る	岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会委員	平成19年度～現在に至る	岐阜県准看護師試験委員	平成22年度～現在に至る	岐阜県新しい公共の場づくりのためのモデル事業会議体委員(委員長)	平成23～24年度	岐阜県看護師等就業協力員	平成23～24年度	ヘルスプランぎふ21推進会議委員	平成23・25年度	IV	38単位の新教育課程への移行に期待したい。																																																																			
委員会委員名	委員担当開始年度																																																																																									
岐阜県公衆衛生研修会評議員	平成12年度～現在に至る																																																																																									
岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会委員	平成19年度～現在に至る																																																																																									
岐阜県准看護師試験委員	平成22年度～現在に至る																																																																																									
岐阜県新しい公共の場づくりのためのモデル事業会議体委員(委員長)	平成23～24年度																																																																																									
岐阜県看護師等就業協力員	平成23～24年度																																																																																									
ヘルスプランぎふ21推進会議委員	平成23・25年度																																																																																									

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項		自己 評価	論 点 検 証 (案)
	岐阜県産業保健推進連絡事務所産業保健相談員	平成24年度～現在に至る		
	岐阜県高齢者安心計画作成・推進委員会委員	平成23～26年度		
	岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会委員	平成24・27年度		
	岐阜県障害児通所給付費等不服審査会委員	平成24～27年度		
	岐阜県障害者介護給付費等不服審査会委員	平成25～27年度		
	日本看護学会-地域看護-学術集会抄録選考委員 (岐阜県看護協会)	平成23～24年度		
	認定看護管理者教育委員会委員 (岐阜県看護協会)	平成24～26年度		
	助産師職能委員 (岐阜県看護協会)	平成27年度		
	岐阜看護学会委員 (岐阜県看護協会)	平成27年度～現在に至る		
	岐阜県学術集会準備委員会委員 (岐阜県看護協会)	平成27年度～現在に至る		
	* 各種研修会企画・実施状況 (岐阜県)			
	研修名等	対象者等	期間	
	医療的ケア専門研修	特別支援学校の教員	平成24年度～現在に至る	
	保健室経営の充実	教員免許更新対象者	平成21年度～現在に至る	
	障がい児のからだ と医療的ケアの理解			
	高齢者権利擁護推進に係る 看護実務者研修	高齢者福祉施設看護職員	平成23年度～現在に至る	
	保健師 現任研 修	新任者研修 ＜県保健師＞ ＜市町村保健師＞	平成19年度～現在に至る	
		ステップアップ研修 ＜県保健師＞ ＜市町村保健師＞		
		中堅後期保健師研修 ＜県保健師＞		

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項			自己 評価	論 点	検 証 (案)
	管理者研修	管理的立場の保健師 <県保健師> <市町村保健師>				
	* 各種研修会等の講師派遣状況 (岐阜県)					
	研修名等 (平成27年度の派遣人数)		研修担当機関等			
	医療的ケア専門研修 講師 (6名)		岐阜県教育委員会教育研修課			
	岐阜県小中学校教育研究会 講師 (1名)		岐阜県小中学校教育研究会揖斐郡支部養護教諭部会			
	岐阜県高等学校教育研究会 講師 (1名)		岐阜県高等学校教育研究会保健部会			
	高齢者権利擁護推進に係る看護実務者研修 講師 (7名)		岐阜県福祉総合相談センター			
	新任保健師研修 講師 (6名)		岐阜県保健医療課			
	保健師ステップアップ研修 講師 (4名)		岐阜県保健医療課			
	中堅後期保健師研修 講師 (2名)		岐阜県保健医療課			
	管理者研修		岐阜県保健医療課			
	岐阜県森林文化アカデミー非常勤講師		岐阜県森林文化アカデミー			
	教育相談研修会講師		岐阜県教育委員会			
	児童厚生委員会等研修会講師		岐阜県児童館連絡協議会			
	「保健所保健師の保健活動に関する検討会」 オブザーバー		岐阜県保健医療課			
	講演会講師		岐阜県老人福祉協議会中濃支部施設長部会			
	看護教員研修講師		岐阜県看護協会			
	認定看護管理者制度ファーストレベル 教育課程研修会講師 (2名)		岐阜県看護協会			
	認定看護管理者教育課程 (セカンドレベル) 講師		岐阜県看護協会			
	岐阜県保健師助産師看護師実習指導者 講習会講師 (1名)		岐阜県看護協会			
	重症心身障害児者看護人材育成研修会講師		岐阜県看護協会			

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																								
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																																							
2-4-2 教員の能力向上 より質の高い教育研究を実施するため、研修の充実など教員の能力開発を推進する。	<p>① 本学の理念と目標に沿った教員育成をするために、FD活動等を実施した。 年度当初に教員の要望の確認から開始することで、教員個々が主体的にFD活動を創る体制を構築するとともに、FD委員会と他委員会等が柔軟に協働して研修会等の開催等を企画する仕組みとして実施した。 また、現場看護職と協働した教育体制強化のために、実習施設の看護職を含めたFDとして、領域実習及び卒業研究の実習等終了後に、学生の学びに関する現状と課題に関する資料を作成し、当該資料を素材として教員と各施設看護責任者・実習指導看護職で実習における学生の学びについて意見交換を行う体制を整え実施した(毎年度延べ144~146施設との意見交換会の実施)。</p> <p>* FD研修会開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">FD研修会テーマ</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">H22</td> <td>1.</td> <td>文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2.</td> <td>AM: 教養教育を含めた卒業時到達目標について (教務委員会、教養・専門関連科目運営委員会と共同企画)</td> <td rowspan="2">98%</td> </tr> <tr> <td>PM: 学生の主体的な学習を支援するには</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">H23</td> <td>1.</td> <td>文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2.</td> <td>AM: 本学の授業内容を共有し理解を深める研修会</td> <td rowspan="2">98%</td> </tr> <tr> <td>PM: 看護専門科目の授業内容の理解と卒業時到達目標について (教務委員会との共同企画)</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>キャンパスハラスメント防止教職員研修会 (FD&amp;SD) (キャンパスハラスメント防止対策部会との共同企画)</td> <td>FD95% SD74%</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>看護実践研究指導事業の活性化について—看護実践研究活動への支援方法— (看護研究センター・研究交流促進部会との共同企画)</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>WBL (Work Based Learning) に関する研修会—考え方と実際— : 海外(英国) 講師招聘講演&amp;ディスカッション: 3日間プログラム(国際交流対策会議・国際交流部会企画)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">H24</td> <td>1.</td> <td>大学教育に関する研修会: 本学の教育理念を具現化するための 学士課程教育のあり方(教務委員会との共同企画)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>AM: 学外交流(初年次教育)についての報告と本学の授業内容(専門関連科目)の 報告による共有(教養専門関連科目運営会議及び教務委員会との共同企画)</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	FD研修会テーマ		参加率	H22	1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%	2.	AM: 教養教育を含めた卒業時到達目標について (教務委員会、教養・専門関連科目運営委員会と共同企画)	98%	PM: 学生の主体的な学習を支援するには	H23	1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%	2.	AM: 本学の授業内容を共有し理解を深める研修会	98%	PM: 看護専門科目の授業内容の理解と卒業時到達目標について (教務委員会との共同企画)	3.	キャンパスハラスメント防止教職員研修会 (FD&SD) (キャンパスハラスメント防止対策部会との共同企画)	FD95% SD74%	4.	看護実践研究指導事業の活性化について—看護実践研究活動への支援方法— (看護研究センター・研究交流促進部会との共同企画)	96%	5.	WBL (Work Based Learning) に関する研修会—考え方と実際— : 海外(英国) 講師招聘講演&ディスカッション: 3日間プログラム(国際交流対策会議・国際交流部会企画)	100%	H24	1.	大学教育に関する研修会: 本学の教育理念を具現化するための 学士課程教育のあり方(教務委員会との共同企画)	100%	2.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%	3.	AM: 学外交流(初年次教育)についての報告と本学の授業内容(専門関連科目)の 報告による共有(教養専門関連科目運営会議及び教務委員会との共同企画)	98%	IV		FD研修会を数多く開催していることは評価できる。
年度	FD研修会テーマ		参加率																																								
H22	1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%																																								
	2.	AM: 教養教育を含めた卒業時到達目標について (教務委員会、教養・専門関連科目運営委員会と共同企画)	98%																																								
		PM: 学生の主体的な学習を支援するには																																									
H23	1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%																																								
	2.	AM: 本学の授業内容を共有し理解を深める研修会	98%																																								
		PM: 看護専門科目の授業内容の理解と卒業時到達目標について (教務委員会との共同企画)																																									
	3.	キャンパスハラスメント防止教職員研修会 (FD&SD) (キャンパスハラスメント防止対策部会との共同企画)	FD95% SD74%																																								
	4.	看護実践研究指導事業の活性化について—看護実践研究活動への支援方法— (看護研究センター・研究交流促進部会との共同企画)	96%																																								
5.	WBL (Work Based Learning) に関する研修会—考え方と実際— : 海外(英国) 講師招聘講演&ディスカッション: 3日間プログラム(国際交流対策会議・国際交流部会企画)	100%																																									
H24	1.	大学教育に関する研修会: 本学の教育理念を具現化するための 学士課程教育のあり方(教務委員会との共同企画)	100%																																								
	2.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	98%																																								
	3.	AM: 学外交流(初年次教育)についての報告と本学の授業内容(専門関連科目)の 報告による共有(教養専門関連科目運営会議及び教務委員会との共同企画)	98%																																								

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)
	H25		PM：「実習における実践と理論の統合」又は「学習における基礎能力向上のための教員のかかわり」（教務委員会との共同企画）				
		4.	学生生活支援に関する研修会：青年期のうつおよび学習障がい・発達障がいを捉えた学生生活支援（FD&SD）（学生生活委員会との共同企画）	94%			
		5.	成績評価に関する研修会（教務委員会との共同企画）	100%			
		1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	91%			
		2.	学士課程に関する研修会：学生の主体的学修を促す教育の取り組みや工夫（教務委員会との共同企画）	96%			
	H26	3.	岐阜県看護実践研究交流会会員への研究支援の充実に向けた研修会（看護研究センター・研究交流促進部との共同企画）	98%			
		4.	WBL（Work Based Learning）に関する研修会 －学部教育と大学院教育－：海外（英国）講師招聘講演&ディスカッション：3日間プログラム（国際交流対策会議・国際交流部会企画）	100%			
		5.	キャンパスハラスメントに関する研修会（FD&SD）	FD87% SD66%			
		1.	文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	91%			
		2.	大学とハラスメント－他大学の事例を通して考える－（FD&SD） 講師：キャンパスハラスメント相談センター（法人人権倫理対策会議企画）	FD79% SD100%			
	H27	3.	AM「学生の主体的な学修支援」及び「生涯学習の基盤づくりにおける本学の教育の成果について」 PM 実習に効果的に繋げる技術演習の方法等	98%			
		4.	研究倫理に関する研修会（研究倫理委員会との共同企画）	100%			
		5.	特別研修会：本学の原点から将来のあり方について考える（FD&SD）（法人経営戦略会議企画）	FD98% SD92%			
		1.	AM：本学の将来の「教育」について～本学の学生の特徴・ニーズ、教育の現状と成果から考える～（教務委員会との共同企画） 昼食時交流会：実習での苦勞話しあれこれ、研究を始める準備と進め方等フリートークセッション PM1：実習における学生指導・環境の調整、参加型学習について等 PM2：文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会	96%			

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																		
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項			自己 評価	論 点	検 証(案)																																																	
	2.	学生の主体的学習を促すための教育方法に関する研修会(教務委員会との共同企画)	94%																																																				
	3.	本学卒業者の生涯学習支援に関する研修会(看護研究センターとの共同企画)	96%																																																				
	4.	キャンパスハラスメント防止対策研修会(FD&SD) 講師:キャンパスハラスメント相談センター(法人人権倫理対策会議企画)	FD75% SD74%																																																				
	5.	研究倫理教育研修:コンプライアンスに関する研修会 (法人人権倫理対策会議企画)	100%																																																				
	※ 表中「SD(スタッフ・ディベロップメント)」とは:事務職員の資質向上のために実施される研修																																																						
3-2-1 人材の確保 ア 教員 大学の教育研究の質の維持向上を図るため、柔軟かつ多様な雇用形態や勤務形態を導入するなどにより、創造性豊かな教員の確保に努める。  イ 事務職員 計画的な採用等により、法人の特性にあった専門性の高い事務職員の確保に努める。	① 教員の裁量労働制を導入するとともに、研究室の暑さ対策として窓へ遮熱シートの貼付、教員間の情報交流のためのサロン設置、大学内の入退室をスムーズに行うための管理システムの導入を行うなど、教員が働きやすい環境を整備することにより、教員の確保・定着に努めた。  ② 育児休業等に対応するために教員の任期付き雇用制度を導入し、休暇を取得しやすい環境を整えた。  ① 事務職員のプロパー化計画を作成し、法人職員の採用を行った。さらに、将来、人事の硬直化を招かない体制とするため、次期中期計画期間における年齢別・職位別の採用計画を策定した。 * 職員の内訳				III	プロパー職員を一定数確保することは必須であり、引き続き努力されたい。																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務職員</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>うちプロパー職員</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>司書</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>うちプロパー職員</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>契約職員</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>						年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	事務職員	12	12	12	12	12	12	うちプロパー職員	0	0	1	3	3	5	司書	2	2	2	2	2	2	うちプロパー職員	0	0	1	2	2	2	契約職員	12	12	12	12	12	12	計	26	26	26	26	26	26
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27																																																	
事務職員	12	12	12	12	12	12																																																	
うちプロパー職員	0	0	1	3	3	5																																																	
司書	2	2	2	2	2	2																																																	
うちプロパー職員	0	0	1	2	2	2																																																	
契約職員	12	12	12	12	12	12																																																	
計	26	26	26	26	26	26																																																	
3-4 危機管理に関する目標 教育研究活動を円滑に実施するため、学生及び職員の健康の確保及び事故、犯罪、災害等の	① 学内の洗面所、各出入口等に手指消毒液を配備し、各種感染症の予防に努めるなど、校内の健康及び安全管理にかかわる課題について適切に判断し対応した。  ② 職員の日常的な学内巡回による異常箇所の発見、及び警備員の夜間巡視により学内の安全確保に努めた。その他、学生が不適切な勧誘に巻き込まれないよう、注意喚起を促すため「若年消費者被害未然防止セミナー」、「薬物乱用防止セミナー」				III	災害訓練なども、県、市、警察、消防などと連携して実施されたい。																																																	

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証											
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)										
<p>発生の未然防止に努める。 また、健康を脅かす事案や事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を整備する。</p>	<p>一」を開催した。</p> <p>③ 健康・安全管理特別会議において、全体の危機管理を行った。教授会、教員会議の場や、電子メールを用いて、迅速に各事案についての注意喚起を図り、予防や拡大の防止に努めた。また、教職員及び学生に対し、各自の携帯電話を使用した安否確認訓練、消防署と合同消防訓練を行うなど、常に危機管理意識の向上を図った。</p> <p>④ 地元の市教育委員会及び警察署からの不審者情報に関する連絡体制を整備した。</p> <p>⑤ 危機管理対策の基本方針を決定した。その後、他大学の危機管理について情報収集を行い「災害対応マニュアル」を策定し、教職員及び学生に対し周知した。</p> <p>⑥ 組織的に迅速な対応をとるため、学校医と連携を図り「県立看護大学における感染症防止対応フロー図」を作成し、それに基づき行動できた。</p> <p>⑦ 「情報セキュリティ基本方針」、「情報セキュリティ対策基準」、「情報セキュリティポリシー」、「外部記録媒体の管理及び利用に関する要領」等を策定し、管理体制を確立した。また、教職員に対する危機管理意識の向上のため研修を実施するとともに、個人情報保護チェックシートにより現状確認に努めた。</p>													
<p>4-1-2 その他自己収入の確保 施設の有効活用について検討を行い、適正な使用料収入の確保に努める。</p>	<p>① 平成23年4月から学外者の大学施設使用を有料化し、自己収入の確保に努めた。</p> <p>* 施設使用料収入 (単位：円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,103,750</td> <td>1,032,550</td> <td>881,550</td> <td>1,145,400</td> <td>1,166,350</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 他の公立大学に対し、実態調査を実施し、それを参考に受益者負担に係る基本方針を作成した。</p>	H23	H24	H25	H26	H27	1,103,750	1,032,550	881,550	1,145,400	1,166,350	III		数値目標を明記しては如何か。
H23	H24	H25	H26	H27										
1,103,750	1,032,550	881,550	1,145,400	1,166,350										
<p>4-2 経費の抑制に関する目標</p>	<p>① 教員会議等において、次年度の予算編成方針や財政状況を説明することにより、全職員に対するコスト意識の高揚を図った。</p> <p>② 毎月の電気使用量について、大学管理・運営会議及び教授会で報告を行い、節電対策の効果について意識を高めた。また、施設管理業務の委託において複数年契約を行うことにより、設備管理業務で年間846,000円、清掃管理業務で年間4,338,750円の経費節減を行うことができた。</p>	III		施設管理業務の複数年契約により、大幅に経費を削減したことは評価できる。										
<p>5-1 自己点検・評価に関する目標</p>	<p>① 毎年度末に、各領域・委員会・会議単位で自己点検を行い、翌年度の取組みに繋げた。また、自己点検評価結果報告書としてとりまとめ、有効に活用した。</p>	III		大学基準協会による、認証評価を引き続										

第1期中期目標	中期目標に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)
教育研究活動及び法人運営について、定期的に自己点検及び評価を行うとともにその結果に基づく改善措置を実施する。 また、自己点検及び評価の結果を定期的に公表する。	② 平成22年度に(公財)大学基準協会による大学評価を受審した。平成23年4月1日付けで大学基準に適合していると認定され、評価結果について、大学のホームページにて公表した。なお、助言を受けた事項に関し、大学院の学位授与方針の見直し、大学院担当教員の選考基準の明文化などの改善を図った。			き受審いただきたい。
5-2 情報公開の推進に関する目標 県民に対する説明責任を果たすため、法人の諸活動の実績等について適切な方法で公表し、法人運営の透明性を図る。	① 本学の研究紀要、県内看護職者との共同研究事業実績報告書、県内看護職者の生涯学習を促進することを目的とした看護実践研究指導事業報告書をホームページ上に掲載した。また、社会貢献として国立情報学研究所の機関リポジトリへも掲載し、本学の学術研究の成果を還元した。 ② 教育情報の公表項目、財務諸表、(公財)大学基準協会による大学評価結果の結果等、大学の運営情報を速やかに公表した。また、法人情報だけでなく、学内イベントや研修内容、地域事業への参加状況や入学試験結果を掲載するなど、本学志願者や県民に対する積極的な情報公開に努めた。 ③ よりわかりやすい情報提供のため、大学の新しいホームページを構築した。	III		大学ポートレートへの参加を検討されたい。